

## 海外における予防接種状況アンケート調査

中村 安秀<sup>1)</sup>、渡辺 洋子<sup>2)</sup>、戸出 二郎<sup>3)</sup>、佐藤 泰朗<sup>4)</sup>  
上野 則子<sup>5)</sup>、秦 堅佐工<sup>1)</sup>、白石 幸弘<sup>6)</sup>、江井 俊秀<sup>6)</sup>

### 研究の要約

具体的な各国母子保健情報の提供を行うという目的の第一歩として、実現可能性を考慮した上で最もニーズの高い各国別の予防接種情報を入手し、得られた情報を整理し、適切に提供する方法を確立しようと試みた。

調査は1993年3月から7月の期間にアンケート方式で行い、外務省大臣官房福利厚生室と青年海外協力隊事務局の協力の下に60カ国の予防接種状況を得た。予防接種アンケート票はBCG、ポリオ、DPT（三種混合）、麻疹など個別の予防接種体制に関するもの、予防接種証明書や予防接種事故などに関するもの、日本人に対する予防接種の推薦の度合いなど31項目の質問から構成された。

今回の調査結果を予防接種情報の各国別のファイル形式で整理した。また、医学的情報は医師や看護婦といった保健医療専門職から直接入手するのが最も信頼できることが判明した。海外保健情報の提供機関は一般的かつ客観的な情報を印刷物で提供するとともに、主観的な情報は個別に相談相手の背景などを考慮しながら提供していく必要があると思われた。とくに個別相談の場では、各国別にファイルされた形式の予防接種情報が非常に有用であったので、次年度に作成予定の母子保健情報も各国別ファイル形式でまとめるべきであろう。また、外務省や海外青年協力隊といった在外機関の協力は不可欠であり、ことに情報の更新作業は在外機関の協力なしには現実的に不可能であると思われた。

また、主観的情報源としては、すでに赴任地から帰国したから家庭からの具体的な情報は重要であり、今後は保健医療関係者からの情報とともに一般の人からの主観的情報も合わせて収集、分析する必要がある。

- 
- 1) 東京大学医学部小児科    2) 東京大学医学部母子保健学教室    3) 元外務省診療所  
4) 外務省診療所    5) 青年海外協力隊診療室    6) 母子衛生研究会

## 研究目的

地球規模でのグローバルな人的交流の拡大に伴い、短期および長期の海外渡航者は急増している。海外在留邦人調査統計によれば、1991年10月現在663,074人の日本人が海外に暮らしており、うち412,207人は長期滞在者である。長期滞在者は前年比10.2%と著しい伸びを見せ、5年前と比較すると64%という驚異的な増加を呈している。このように海外在住の長期滞在者の増加にともない、当然のことながら海外で暮らす妊婦や乳幼児、あるいは海外での出産も増えている。

昨年度われわれは海外在留邦人の保健医療に対する国内サポート機関の調査を行ったが、大企業などの法人を対象としたものが多く、一般には情報を公開していない機関が多かった。また、小児を帯同して海外赴任している家族に対するニーズ調査の結果によると、前任者などの限られた情報源から保健医療情報を得ている人が多く、20%近くは情報を得られないまま赴任しており、具体的な国別の母子保健情報を赴任前に入手したいという要望が第一に挙げられていた。

われわれは具体的な各国母子保健情報の提供を行うという目的の第一歩として、実現可能性を考慮した上で最もニーズの高い各国別の予防接種情報を入手し、得られた情報を整理し、適切に提供する方法を確立しようと試みた。

## 研究対象と方法

日本人が必要とする各国における予防接種情報に最も精通していると思われるのは、当該国に在住している日本人の保健医療関係者である。調査方法はアンケート方式で行い、外務省大臣官房福利厚生室と青年海外協力隊事務局の協力の下に1993年3月に送付し、1993年7月までに回収した。アンケート票を送付した対象は在外公館医務官（医師）43名、青年海外協力隊医療調整員（看護婦）22名、留学中の小児科医10名であり、回収されたのは医務官41名、協力隊医療調整員22名、留学小児科医10名であった（回収率97.3%）。予防接種アンケート票はBCG、ポリオ、DPT（三種混合）、麻疹など個別の予防接種体制に関するもの、予防接種証明書や予防接種事故などに関するもの、日本人に対する予防接種の推薦の度合など31項目の質問から構成された。

医務官や協力隊医療調整員の回答が重複している国における調整や文献などからの情報との照合を行い、かなりの精度で正確であると思われた60カ国について今回の研究の対象とした。

## 結果

(1) 合計60カ国からの結果を得た。地域分布は欧州・北米11カ国、アジア17カ国、中近東5カ国、アフリカ13カ国、中南米8カ国、オセアニア・太平洋6カ国であった。

(2) BCGは西欧、北米の他、オーストラリア、ヨルダンでは実施していなかった。

(3) ポリオはすべての国で3回以上投与されており、半数以上の国では生後2カ月までに投与が開始されていた。大部分は経口投与であったが、西欧などの一部の国では不活化ワクチン単独、あるいはDPTとの合剤の不活化4種混合の形で接種されていた。

(4) DPTはほとんどの国が生後3カ月までに接種を開始していた。

(5) 麻疹は多くの国では生後9カ月に単独ワクチン接種を行っていた。MMRのみを実施していたのは、西欧、北米などの13カ国であった。しかし、麻疹-MMR、あるいはMMR-MMRという形での追加接種を行う国は20カ国にのぼった。

(6) B型肝炎はキャリア率の高いアジア諸国の多くの国で、新生児全員に対するワクチン接種が行われていた。

(7) インフルエンザb菌に対する予防接種は、北米、西欧などの10カ国で実施されていた。

(8) 予防接種後遺症に対する公的補償制度のある国は、北米、西欧、台湾など限られた国であった。

(9) 小学校入学時の予防接種証明書は半数以上の国で必要であった。

## 考察

### (1) 予防接種情報について

今回の調査結果を予防接種情報の各

国別のファイル形式で整理した。このような各国別の予防接種情報としては、厚生省が10年前に発行したものと市販の予防接種情報があるだけで、現在でも通用するものとしては今回の調査が唯一といっても過言ではない。この各国別ファイルは具体的な国別の母子保健情報を赴任前に入手したいという海外在留邦人のニーズに対応したものであり、国内の保健医療相談機関では有効に利用できるものと思われた。ただ、海外赴任する家族に直接情報を提供する際には、各国の保健衛生状況や風土病や生活上の注意など、情報の背景を説明した上で、予防接種情報を提供する必要があると考えられた。

また、今回の調査対象国は60カ国であるが、長期滞在在留邦人の85.4%をカバーしており、実際的な見地からはこれくらいの国数が適切であると考えられた。

### (2) 情報の入手方法について

医学的情報は医師や看護婦といった保健医療専門職から直接入手するのが最も信頼できることが判明した。また、日本人の保健医療専門職は日本人に必要な情報に精通しているので、的確な情報が得られたとの印象をもった。とくに外務省や青年海外協力隊の協力は非常に大きく、回収率も高く、また短期間で回収できたのが特徴であった。

### (3) 得られた情報の分析と提供について

赴任する日本人に勧めたい予防接種の種類といった主観的な情報は貴重なもの

であるが、これらの主観的情報は個別に情報提供するには有用であるが、個人的見解が色濃く出ているので印刷物にはなじまないとされた。一方、当該国の予防接種体制といった客観的情報は印刷物として提供するのに適しているが、個別の相談の場合においては不十分な場合もある。

例えば、先進国に赴任する場合には当該国の予防接種体制を客観的情報として提供するだけで十分なことが多い。しかし、途上国の場合には日本で受けておくべき予防接種を優先順位を付けて推薦する必要も生じる。そのような個別相談の際には、主観的情報が有用となってくる。

すなわち、海外保健情報の提供機関は一般的かつ客観的な情報を印刷物で提供するとともに、主観的な情報は個別に相談相手の背景などを考慮しながら提供していく必要があると思われた。

#### (4) 予防接種情報・各国別ファイルの有用性について

本調査で得られた予防接種情報を整理したものを各国別にファイルして東京都母子保健サービスセンターの国際育児相談で試用した。海外保健医療の経験のない一般の保健婦が電話での問い合わせ窓口を担当したが、ほとんどの相談に十分に対応できた。この予防接種情報の各国別ファイルは非常に有用であり、保健所や市町村などの相談窓口での対応に寄与するものであると考えられる。しかし、数的には少数であるが、専門的な知識を要求される相談もある

るので、その場合に照会できるセンター的な機能をもつ上位の相談機関が必要であると思われた。

#### (5) 他の保健医療情報の収集、分析、提供に対する応用性について

保健医療情報は各国別にファイルされた形式のものが、相談の場では非常に有用であることが判明した。次年度に作成予定の母子保健情報も各国別ファイル形式でまとめるべきであろう。また、情報の更新作業は最も重要な課題であるが、外務省や青年海外協力隊といった在外機関の協力なしには現実的に不可能であると思われる。

今回の調査では利用しなかったが、主観的情報源としては、すでに赴任地から帰国した家庭からの具体的な情報も重要である。ロンドンやバンコクのように日本人母親の育児グループが現地で活動している地域もあるので、そのようなグループや個人からの情報収集も重要となろう。今後は保健医療関係者からの情報とともに一般の人からの主観的情報も合わせて収集、分析する必要があるだろう。

#### 謝辞

本調査にご協力いただきました外務省大臣官房福利厚生室と青年海外協力隊事務局に厚く感謝いたします。また、海外赴任や留学中のご多忙の中、アンケート票にご記入いただきました在外公館医務官、青年海外協力隊医療調整員、留学中の小児科の先生方に深謝いたします。

アンケート回収国の長期滞在在留邦人数

地域	国名	在留邦人数	地域	国名	在留邦人数
①アジア 17カ国	インド	1,226	⑥西ヨーロッパ 4カ国	連合王国	44,865
	インドネシア	8,349		オーストリア	1,511
	ヴィエトナム	111		スウェーデン	535
	シンガポール	15,324		フランス	13,636
	スリ・ランカ	587	小計		60,547
	タイ	14,515	⑦東ヨーロッパ 5カ国	ロシア	1,047
	台湾	7,512		ブルガリア	97
	韓国(大韓民国)	6,138		ポーランド	253
	中国(中華人民共和国)	6,416		ユーゴスラヴィア	139
	ネパール	397		ルーマニア	109
	パキスタン	499	小計		1,645
	パングラデシュ	363	⑧中近東 5カ国	アラブ首長国連邦	806
	モルディヴ	47		イラン	487
	フィリピン	3,461		クウェイト	26
	香港	13,824		サウディ・アラビア	867
モンゴル	44	ヨルダン		96	
ラオス	52	小計		2,282	
小計		78,865	⑨アフリカ 13カ国	アルジェリア	296
②大洋州 6カ国	フィジー	173		エジプト	713
	オーストラリア	11,567		ガーナ	186
	ソロモン	164		ケニア	859
	ババア・ニューギニア	252		ザンビア	254
	ヴァヌアツ	60		スーダン	75
	トンガ	46		セネガル	130
小計		12,262		象牙海岸共和国	159
③北アメリカ 2カ国	アメリカ合衆国	174,835		タンザニア	245
	カナダ	10,443		ナイジェリア	228
小計		185,278		ニジェール	59
④中央アメリカ 3カ国	ホンデュラス	192		マダガスカル	97
	ニカラグア	42		マラウイ	94
	メキシコ	1,968	小計		3,395
小計		2,202	合計	60カ国	351,917
⑤南アメリカ 5カ国	アルゼンティン	535	*永住者を除く在留期間3ヵ月以上の長期滞在者 (平成3年10月) 資料：外務省 海外在留邦人数調査統計		
	コロンビア	426			
	パラグアイ	342			
	ブラジル	3,824			
	ボリヴィア	314			
小計		5,441			

# 国名：ブラジル

## 1. 基本的な予防接種スケジュール

	BCG	ポリオ	3種混合	麻疹(MMR)	インフルエンザb菌
1回目	1ヶ月	2ヶ月	2ヶ月	(麻疹)9-11月	
2回目		4ヶ月	4ヶ月	(MMR)12-17月	
3回目		6ヶ月	6ヶ月		
4回目		1歳3ヶ月	1歳3ヶ月		
5回目		5歳0ヶ月	5歳0ヶ月		
6回目					実施せず

\* : D T 接種      \*\* : 追加接種

## 2. BCG

- ① ツベルクリン反応(ツ反)について  
ツ反を行なった後にBCG接種    ◎ ツ反をせずにBCG接種    その他(    )
- ② 追加接種について  
小学校入学前      小学校入学後      ◎追加接種せず      その他(    )

## 3. ポリオ

- ◎経口ワクチン    ◎不活化単独ワクチン    不活化4種混合    不明

## 4. 3種混合(DPT)

- ① 百日咳ワクチンについて  
全菌体ワクチン      改良型ワクチン      ◎不明

## 5. 麻疹/MMR

- ① 接種基本方針について  
通常MMRのみ      通常麻疹のみ      ◎併用      不明      その他(    )
- ② MMRの副作用  
◎報告多い      報告少ない      報告ほとんどない      実態は不明

## 6. B型肝炎

- ① 母子感染予防について  
実施中      ◎実施していない      その他(    )
- ② 実施方法について  
新生児全員      母親が抗原陽性の新生児のみ      その他(    )

## 7. その他の予防接種

- ①  
②  
③

## 8. 入学時の予防接種証明

- 全校必要    ◎International校のみ必要    必要なし    不明    その他(    )

## 9. 予防接種事故の公的補償制度

- あり      無し      ◎不明

# 国名：ホンデュラス

## 1. 基本的な予防接種スケジュール

	BCG	ポリオ	3種混合	麻疹(MMR)	インフルエンザb菌
1回目	0ヶ月	0ヶ月	2ヶ月	9-11ヶ月	
2回目		2ヶ月	4ヶ月		
3回目		4ヶ月	6ヶ月		
4回目		6ヶ月			
5回目					
6回目					実施せず

\* : D T 接種    \*\* : 追加接種

## 2. BCG

- ① ツベルクリン反応(ツ反)について  
 ツ反を行なった後にBCG接種    ◎ ツ反をせずにBCG接種    その他( )
- ② 追加接種について  
 小学校入学前    小学校入学後    追加接種せず    ◎ その他(7歳、12歳時)

## 3. ポリオ

- ◎ 経口ワクチン    不活化単独ワクチン    不活化4種混合    不明

## 4. 3種混合(DPT)

- ① 百日咳ワクチンについて  
 全菌体ワクチン    改良型ワクチン    ◎ 不明

## 5. 麻疹/MMR

- ① 接種基本方針について  
 通常MMRのみ    ◎ 通常麻疹のみ    併用    不明    その他( )
- ② MMRの副作用  
 報告多い    報告少ない    報告ほとんどない    実態は不明

## 6. B型肝炎

- ① 母子感染予防について  
 実施中    ◎ 実施していない    その他( )
- ② 実施方法について  
 新生児全員    母親が抗原陽性の新生児のみ    その他( )

## 7. その他の予防接種

- ① 狂犬病  
 ②  
 ③

## 8. 入学時の予防接種証明

- ◎ 全校必要    International校のみ必要    必要なし    不明    その他( )

## 9. 予防接種事故の公的保証制度

- あり    ◎ 無し    不明

# 国名：パキスタン

## 1. 基本的な予防接種スケジュール

	BCG	ポリオ	3種混合	麻疹(MMR)	インフルエンザb菌
1回目	0ヶ月	0ヶ月	1.5ヶ月	9-11ヶ月	
2回目		1.5ヶ月	2.5ヶ月		
3回目		2.5ヶ月	3.5ヶ月		
4回目		3.5ヶ月	1歳0ヶ月		
5回目					
6回目					実施せず

\* : D T 接種    \*\* : 追加接種

## 2. BCG

- ① ツベルクリン反応(ツ反)について  
ツ反を行なった後にBCG接種    ◎ ツ反をせずにBCG接種    その他( )
- ② 追加接種について  
小学校入学前    小学校入学後    ◎ 追加接種せず    その他( )

## 3. ポリオ

- ◎ 経口ワクチン    不活化単独ワクチン    不活化4種混合    不明

## 4. 3種混合(DPT)

- ① 百日咳ワクチンについて  
全菌体ワクチン    改良型ワクチン    ◎ 不明

## 5. 麻疹/MMR

- ① 接種基本方針について  
通常MMRのみ    ◎ 通常麻疹のみ    併用    不明    その他( )
- ② MMRの副作用  
報告多い    報告少ない    報告ほとんどない    実態は不明

## 6. B型肝炎

- ① 母子感染予防について  
実施中    ◎ 実施していない    その他(希望者のみ)
- ② 実施方法について  
新生児全員    母親が抗原陽性の新生児のみ    その他( )

## 7. その他の予防接種

- ① 日本脳炎  
② 狂犬病  
③

## 8. 入学時の予防接種証明

- 全校必要    International校のみ必要    ◎ 必要なし    不明    その他( )

## 9. 予防接種事故の公的補償制度

- あり    ◎ 無し    不明



# 国名：シンガポール

## 1. 基本的な予防接種スケジュール

	BCG	ポリオ	3種混合	麻疹(MMR)	インフルエンザb菌
1回目	0ヶ月	3ヶ月	3ヶ月	12-17ヶ月	0歳2ヶ月
2回目		4ヶ月	4ヶ月	小学校前**	0歳4ヶ月
3回目		5ヶ月	5ヶ月		
4回目		1歳6ヵ月	1歳6ヵ月		
5回目		7歳	7歳*		
6回目		12歳	12歳*		

\*: D T 接種    \*\*: 追加接種

## 2. BCG

- ① ツベルクリン反応(ツ反)について  
 ツ反を行なった後にBCG接種    ◎ ツ反をせずにBCG接種    その他( )  
 ② 追加接種について  
 小学校入学前    ◎ 小学校入学後    追加接種せず    その他( )

## 3. ポリオ

- ◎ 経口ワクチン    不活化単独ワクチン    不活化4種混合    不明

## 4. 3種混合(DPT)

- ① 百日咳ワクチンについて  
 全菌体ワクチン    ◎ 改良型ワクチン    不明

## 5. 麻疹/MMR

- ① 接種基本方針について  
 通常MMRのみ    通常麻疹のみ    ◎ 併用    不明    その他( )  
 ② MMRの副作用  
 報告多い    報告少ない    ◎ 報告ほとんどない    実態は不明

## 6. B型肝炎

- ① 母子感染予防について  
 ◎ 実施中    実施していない    その他( )  
 ② 実施方法について  
 ◎ 新生児全員    母親が抗原陽性の新生児のみ    その他( )

## 7. その他の予防接種

- ①  
 ②  
 ③

## 8. 入学時の予防接種証明

- ◎ 全校必要    International校のみ必要    必要なし    不明    その他( )

## 9. 予防接種事故の公的補償制度

- あり    ◎ 無し    不明

# 国名：イギリス

## 1. 基本的な予防接種スケジュール

	BCG	ポリオ	3種混合	麻疹(MMR)	インフルエンザb菌
1回目		2ヶ月	2ヶ月	12-18ヶ月	2ヶ月
2回目		3ヶ月	3ヶ月	4-5歳**	3ヶ月
3回目		4ヶ月	4ヶ月		4ヶ月
4回目		4-6歳	4-6歳		
5回目		15-18歳			
6回目	実施せず				

\*: D T 接種    \*\*: 追加接種

## 2. BCG

- ① ツベルクリン反応(ツ反)について  
ツ反を行なった後にBCG接種    ツ反をせずにBCG接種    その他( )
- ② 追加接種について  
小学校入学前    小学校入学後    追加接種せず    ◎その他(必要に応じて)

## 3. ポリオ

- ◎経口ワクチン    不活化単独ワクチン    不活化4種混合    不明

## 4. 3種混合(DPT)

- ① 百日咳ワクチンについて  
◎全菌体ワクチン    改良型ワクチン    不明

## 5. 麻疹/MMR

- ① 接種基本方針について  
◎通常MMRのみ    通常麻疹のみ    併用    不明    その他( )
- ② MMRの副作用  
報告多い    ◎報告少ない    報告ほとんどない    実態は不明

## 6. B型肝炎

- ① 母子感染予防について  
◎実施中    実施していない    その他( )
- ② 実施方法について  
新生児全員    ◎母親が抗原陽性の新生児のみ    その他( )

## 7. その他の予防接種

- ①  
②  
③

## 8. 入学時の予防接種証明

- ◎全校必要    International校のみ必要    必要なし    不明    その他( )

## 9. 予防接種事故の公的補償制度

- ◎あり    無し    不明

# 国名：アメリカ合衆国

## 1. 基本的な予防接種スケジュール

	BCG	ポリオ	3種混合	麻疹(MMR)	インフルエンザ <b>b</b> 菌
1回目		2ヶ月	2ヶ月	12-17ヶ月	2ヶ月
2回目		4ヶ月	4ヶ月	中学校**	4ヶ月
3回目		1歳6ヶ月	6ヶ月		6ヶ月
4回目		5歳	1歳6ヶ月		1歳3ヶ月
5回目			5歳		
6回目	実施せず				(HbcV; 37州で実施)

\* : D T 接種    \*\* : 追加接種

## 2. BCG

- ① ツベルクリン反応(ツ反)について  
 ツ反を行なった後にBCG接種    ツ反をせずにBCG接種    その他( )
- ② 追加接種について  
 小学校入学前    小学校入学後    追加接種せず    その他( )

## 3. ポリオ

- ◎経口ワクチン    不活化単独ワクチン    不活化4種混合    不明

## 4. 3種混合(DPT)

- ① 百日咳ワクチンについて  
 全菌体ワクチン    改良型ワクチン    ◎不明

## 5. 麻疹/MMR

- ① 接種基本方針について  
 ◎通常MMRのみ    通常麻疹のみ    併用    不明    その他( )
- ② MMRの副作用  
 報告多い    報告少ない    報告ほとんどない    ◎実態は不明

## 6. B型肝炎

- ① 母子感染予防について  
 ◎実施中    実施していない    その他( )
- ② 実施方法について  
 ◎新生児全員    母親が抗原陽性の新生児のみ    その他( )

## 7. その他の予防接種

- ①  
 ②  
 ③

## 8. 入学時の予防接種証明

- ◎全校必要    International校のみ必要    必要なし    不明    その他( )

## 9. 予防接種事故の公的補償制度

- ◎あり    無し    不明



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 研究の要約

具体的な各国母子保健情報の提供を行うという目的の第一歩として、実現可能性を考慮した上で最もニーズの高い各国別の予防接種情報を入手し、得られた情報を整理し、適切に提供する方法を確立しようと試みた。

調査は 1993 年 3 月から 7 月の期間にアンケート方式で行い、外務省大臣官房福利厚生室と青年海外協力隊事務局の協力の下に 60 カ国の予防接種状況を得た。予防接種アンケート票は BCG、ポリオ、DPT(三種混合)、麻疹など個別の予防接種体制に関するもの、予防接種証明書や予防接種事故などに関するもの、日本人に対する予防接種の推薦の度合いなど 31 項目の質問から構成された。

今回の調査結果を予防接種情報の各国別のファイル形式で整理した。また、医学的情報は医師や看護婦といった保健医療専門職から直接入手するのが最も信頼できることが判明した。海外保健情報の提供機関は一般的かつ客観的な情報を印刷物で提供するとともに、主観的な情報は個別に相談相手の背景などを考慮しながら提供していく必要があると思われた。とくに個別相談の場では、各国別にファイルされた形式の予防接種情報が非常に有用であったので、次年度に作成予定の母子保健情報も各国別ファイル形式でまとめるべきであろう。また、外務省や海外青年協力隊といった在外機関の協力は不可欠であり、ことに情報の更新作業は在外機関の協力なしには現実的に不可能であると思われた。

また、主観的情報源としては、すでに赴任地から帰国したから家庭からの具体的な情報は重要であり、今後は保健医療関係者からの情報とともに一般の人からの主観的情報も合わせて収集、分析する必要があるだろう。